

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大詫間小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

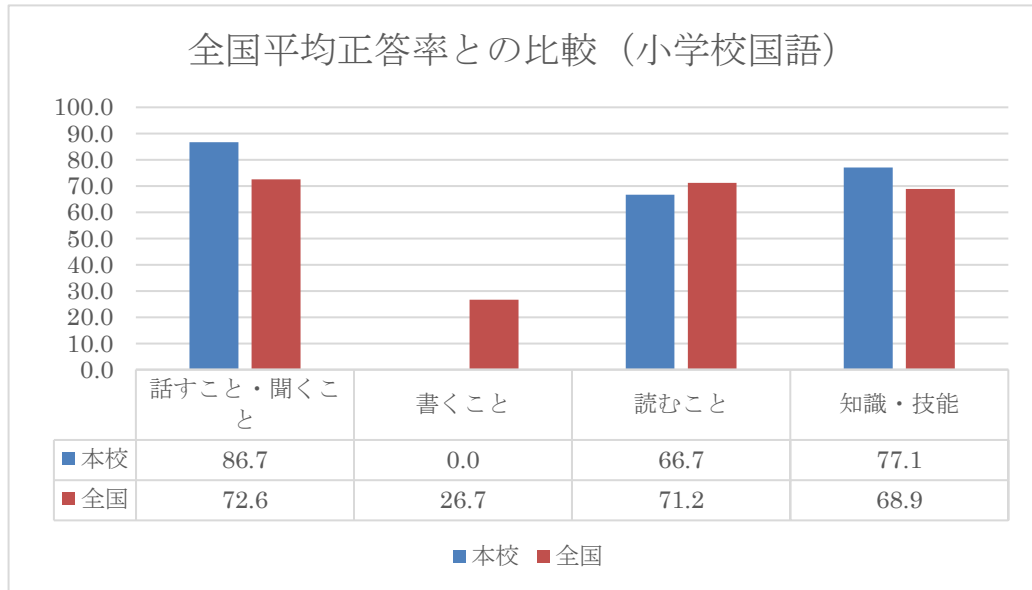
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

「話すこと・聞くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を大きく上回っています。一方で、「書くこと」、「読むこと」の領域が、全国平均を下回っていました。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

#### (2) 成果と課題

「知識・技能」は、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などに取り組んでいることの成果が表れていると考えられます。「話すこと・聞くこと」は、国語の学習だけでなく、日々の授業の話し合い活動や学校行事などで、地域の方へインタビューをしたり、話を聞いたりするなどの体験活動を通して、伸びていると考えられます。課題は、「記述式」の問題の正答率を上げることです。正答率 40.0%と、全国平均正答率 52.2%より下回っています。問題文から必要な事柄を正しく読み取り、指示された条件をもとに文章を書くことが必要です。また、単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視される傾向にあります。日々の授業の中で、根拠をもとに説明したり、書いたりする力を育ていけるように努めていきます。さらに、国語で学習した力を他教科でも活用できるように、児童に気づかせたり、活かさせたりするように指導をしていきます。

#### (3) 学力向上のための取り組み

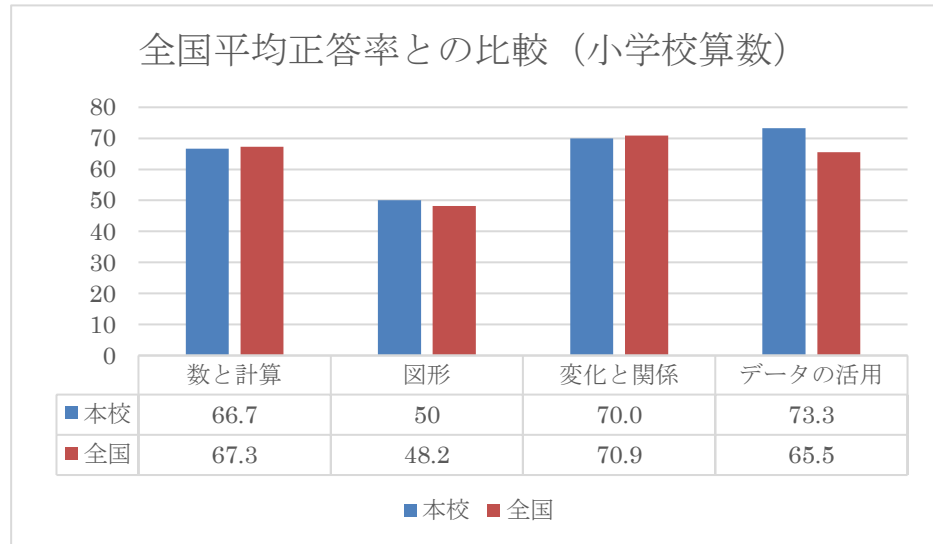
##### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く、条件に合う文章を書く機会を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

##### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。地域や市立の図書館や本屋に定期的に行くことも、子どもの読書習慣をつける上でおすすめです。

## 2 算数



### (1) 結果

「データの活用」の領域で全国平均を上回り、「図形」の領域でやや上回る結果でした。「数と計算」、「変化と関係」の領域で、全国平均を下回っていました。また、無解答率をみると、記述式の問題で無回答率が高かったです。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域の、「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる。」問題の正答率が、全国平均正答率を大きく上回っていました。一方、「図形」の領域の、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由や言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題は、全国平均正答率より下回っていました。基礎的な知識をもとに、問題から必要な情報を自ら選び出すことで、公式の理解を深めるようにする活動を設定することなどが大事になってきます。今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリルなど、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「買い物で元値の〇%引きを考える」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	80.0%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	20.0%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	40.0%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	40.0%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	60.0%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	40.0%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	80.0%	82.6%

どの項目も全国平均を下回っていることが分かりました。

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

さらに、自己肯定感や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は同等か下回っています。これからさらに、児童のがんばりをほめていくなど自己肯定感の向上に努めていきます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	40.0%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	40.0%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	40.0%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	20.0%	26.9%
「30分より少ない」	0%	11.4%
「全くしない」	0%	4.6%

家庭学習については、普段1時間以上学習している児童が、全国平均より多い結果でした。さらに、3時間以上している児童の割合も全国平均より多い結果でした。今後も、家庭学習の手引きをなども使用しながら家庭学習の意味を保護者や子どもに伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 読書カードを活用したり、図書委員会を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。これからも、継続して取り組んでいきます。

##### 【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「家庭学習がんばろう週間」でも取り上げている項目です。「家庭学習がんばろう週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着を図ることは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。